

2010. 6. 2

IFN治療後に発症した1型糖尿病の臨床的特徴——全国疫学調査の成績から



関連ジャンル: 糖尿病 | 肝炎

インターフェロン(IFN)の投与を受けているウイルス性肝炎や慢性骨髄性白血病の患者において、自己免疫性疾患の発症が報告されており、なかでも1型糖尿病の発症は近年増加傾向にある。また2009年には肝炎対策基本法が制定されたことから、今後IFN治療を受ける患者数は増えると予想される。こうした背景の下、日本糖尿病学会1型糖尿病調査研究委員会では、IFN治療中および治療後に1型糖尿病を発症した症例の全国規模の疫学調査を実施し、その結果を、委員会を代表して長崎大学病院生活習慣病予防診療部の中村寛氏が第53回日本糖尿病学会年次学術集会で報告した。



長崎大学病院生活習慣病予防診療部の中村寛氏

この全国調査の目的は、IFN関連の1型糖尿病の発症予知